

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1116
2. 授業担当教員	御手洗 大輔		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この科目は私たちの身の回りにある法を再発見し、その役割について説明できるようになることを目的とするので、新聞雑誌やニュースが取り上げる内容に関心をもって履修すること。		
7. 講義概要	この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶものである。 この講義では、法学をはじめて学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。 この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前・事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。		
8. 学習目標	1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	・各回のレジュメにある用語について、その意味を調べておくこと。予習したキーワードの意味を確認しながら授業を行ない、概念図を完成させてゆく。完成した後に簡単な事例を題材するので、その題材を基にして、グループ学習を行う。 ・レポート課題を最大2回、また、理解度に応じてディスカッションを実施する(第1回の講義で告知する)。		
10. 教科書・参考書・教材	【教材】○御手洗大輔『授業ノート 法学入門』デザインエッグ社、第3版 2024. 1。 【参考書】○田中成明『法学入門』有斐閣、初版 2016. 3。 【参考書】○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014. 10。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・法学一般の基礎知識を理解し、説明できたか。 ・条文や判例の読み方を修得したか。 ・採用試験で出題される問題に対応しうる知識を身に付けたか。 ○評定の方法 授業への参加度(出席、発表、授業態度等)を30%、レポート、小テスト、期末テストなどの結果を70%とする。		
12. 受講生へのメッセージ	・法学概論をはじめとする法学の講義には「正解」がありません。大切なことは自分の考えについて、法を通して主張できることと、他人が異なる主張を持つことを認め、より良い法社会について議論する思考を修得することです。講義の中で様々な主張・考え方に触れることはもちろん、サークルやアルバイトなどの講義外での様々な機会を積極的に利用して、その視野を広げ、それを講義に還元して下さい。 ・事前学習は「キーワード」の調べ学習と社会勉強。事後学習はグループ学習したことを整理して自分の主張を文章化しておくことです。疑問や添削などは講義の前後やメールで随時受け付けます。		
13. オフィスアワー	授業前と授業後に行う。また、授業用メール(p-damitara@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)で随時受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 法の一般理論について① 法とは何か(教科書Ⅱの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第2回	法の一般理論について② 法システムの機能と構造(教科書Ⅲの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法システム」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第3回	法の一般理論について③ 現代法とは何か(教科書Ⅳの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「現代法」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第4回	法の一般理論について④ 法の発展と現在(教科書Ⅴの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法の発展と現在」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第5回	法の一般理論について⑤ 法の強制力とは何か(教科書Ⅵの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法の強制力」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。

第6回	法の一般理論について⑥ 権利・義務、そして人権(教科書Ⅶの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「権利・義務」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第7回	法の一般理論について⑦ 刑事司法システムについて(教科書Ⅷの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「刑事司法システム」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。*条文の読み方を意識すること。
第8回	法の一般理論について⑧ 民事司法システムについて(1)(教科書Ⅸの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「民事司法システム」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。*判例の読み方を意識すること。
第9回	法の一般理論について⑨ 紛争処理システムについて(1)(教科書Ⅹの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	ディスカッションを通じて学んだことを自分の言葉で文章化しておく。*判例の読み方を意識すること。
第10回	法律学的方法論① 紛争処理システムについて(2)(教科書Ⅺの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「紛争処理システム」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。*条文の読み方を意識すること。
第11回	法律学的方法論② 法的思考とは何か(教科書Ⅻの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法的三段論法」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。*判例の読み方を意識すること。
第12回	法律学的方法論③ 正当化の基本構造(教科書Ⅼの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「正当化の基本構造」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第13回	法律学的方法論④ 正当化の基本構造+チャレンジ問題	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	ディスカッション、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第14回	正義論① 法の目的について(教科書Ⅽの部分)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「法の目的」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
第15回	正義論② 正義とは何か(教科書Ⅾ)	事前学習	「レジュメ内の用語」についての調べ学習と社会勉強(時事の確認)を行なう。
		事後学習	「正義」について、グループ学習等で学んだことを自分の言葉で文章化しておく。
期末試験			